

## 指定講演 I

# 心不全パンデミックにおける心筋シンチグラフィの役割を再考する

大阪大学大学院医学系研究科 循環器内科学

坂田 泰史

高齢化社会の到来に伴い、心不全患者数は増加傾向にある。心不全は心臓のポンプ機能が低下することに起因するため、非侵襲的心臓イメージングの重要性はさらに高まっていくと考えられる。虚血性心筋症に関しては、REVIVED-BCIS2の研究結果が示す通り、「非侵襲的心臓イメージングで検出された生存心筋のうち、その部位を灌流している冠動脈が狭窄している場合に、狭窄をPCI(経皮的冠動脈インターベンション)で開放しても、予後の改善にはつながらなかった」という事実が明らかにされている。非侵襲的心臓イメージングの種類、検出された生存心筋、冠動脈の狭窄、PCIという治療手段、そして全死亡および心不全による入院というアウトカム、これらの要素が各臨床現場にどの程度当てはまるかを検討することが、この研究結果を臨床に適用する上での重要なステップである。このような検討を行うことにより、虚血性心筋症だけでなく非虚血性心筋症においても、非侵襲的心臓イメージングが今後どのような方向性を持つべきかが明らかになると考えられる。本講演では、心筋シンチグラフィの役割と将来性について、私見を述べたい。聴衆からの厳しい批判を頂けることを期待する。

### 略歴

1993年	大阪大学医学部医学科卒業	2006年	大阪大学大学院医学系研究科循環器内科学 助教
1994年	大阪警察病院循環器科勤務	2012年	同 講師・診療局長
1998年	大阪大学大学院医学系研究科 博士課程 入学	2013年	同 教授(継続)
2002年	大阪大学大学院医学系研究科 博士課程 修了	2018年	大阪大学医学部附属病院 病院長補佐
	米国テキサス州ヒューストン	2020年	大阪大学国際医工情報センター 副センター長(継続)
	Winters Center for Heart Failure Research,		大阪大学医学部附属病院 未来医療開発部 部長
	Department of Medicine Cardiology,	2022年	大阪大学総長補佐(継続)
	Baylor College of Medicineにて post doctoral		大阪大学医学部附属病院 副病院長(継続)
	fellowとして勤務 (Douglas Mann教授)		

現在に至る

### ■所属学会・資格：

日本循環器学会 常務理事、日本内科学会 評議員、日本工学会アカデミー 会員、日本心臓病学会 理事、日本心不全学会 理事、日本腫瘍循環器学会 理事、日本心エコー図学会 理事、日本成人病(生活習慣病)学会 理事、日本生体医工学会 理事、日本心臓リハビリテーション学会 理事、国際心臓研究会日本部会 理事/評議員